

## 対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日

ただし、記載内容によっては集計期間が一部前後するものがあります。

(発行:2012年9月/次回発行予定:2013年9月)

## 対象範囲

三菱樹脂(株)または下記グループ会社を報告対象範囲としています。ただし、記事の一部については対象範囲が異なる場合があります。その場合、対象範囲を記載するよう努めています。

### 国内生産関係会社対象範囲 17社

(株)アストロ  
(株)アルポリック  
MKVDリーム(株)  
(株)エムケーブイ四日市  
ダイヤモンドディング(株)  
(株)ダイヤサービス  
東洋化学産業(株)  
クオドラント ポリペンコ ジャパン(株)  
羽生プラスチック(株)  
(株)北菱モールド  
(株)菱栄  
菱江産業(株)  
菱興プラスチック(株)  
(株)菱湖テクニカ  
菱成樹脂(株)  
菱琵テクノ(株)  
菱和ロジテム(株)

### 海外生産関係会社対象範囲 8社

上海宝菱塑料制品有限公司  
太洋製膜股有限公司  
Hishi Plastics U.S.A., Inc. (HPU)  
Mitsubishi Plastics Composites America, Inc. (MPCA)  
Mitsubishi Polyester Film, Inc. (MFA)  
Mitsubishi Polyester Film GmbH (MFE)  
PT. MC PET FILM INDONESIA (MFI)  
Dia Moulding Slovakia s.r.o. (DMS)

※2011年3月末現在の社名にて記載

※( )内は略称

## トップメッセージ

より高い価値を創造し、  
豊かな社会づくり、そして  
KAITEKIの実現に貢献します



### はじめに

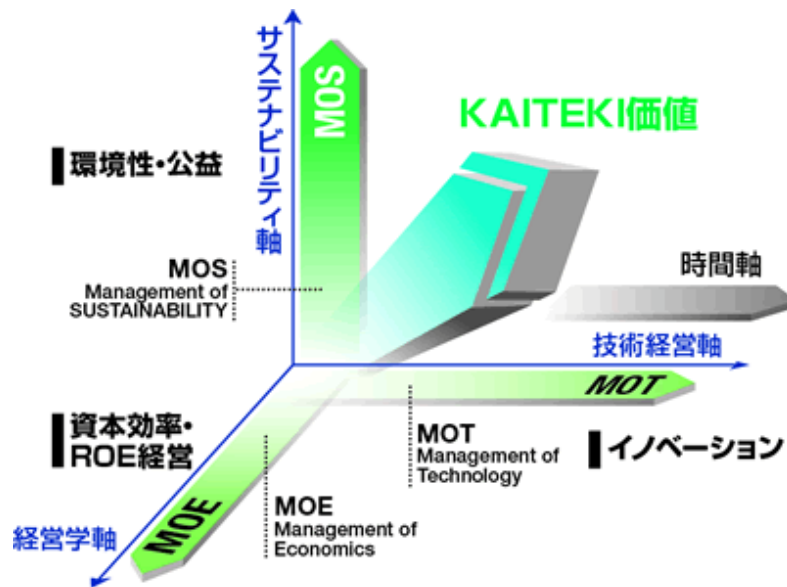
2011年は、東日本大震災に起因する全国的な電力不足や原材料の調達問題など、企業の社会的使命、事業継続のあり方を改めて考えさせられる1年となりました。また、被災された方々を企業として支援するべく、被災地でのボランティア活動や支援物資の提供などに全社を挙げて取り組んだ1年でした。しかし、被災地の本格的な復興はこれからです。私たち三菱樹脂グループは、被災地の一日も早い復興、そして安全・安心な街づくりに最大限の協力をしていきたいと考えています。

### KAITEKIの実現に向けて

今、地球は、温暖化・砂漠化の進行、天然資源の枯渇、生物多様性の危機、人口増加に伴う食料や水不足など、多くの問題を抱えています。これらを解決していくことは容易ではありませんが、企業がこれらの問題を直視し、真に持続可能な社会の構築に向けて取り組んでいくことは、私たちの責務であり、企業が存続していくための大前提であると私たち三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループは考えています。

そのような考えの下、MCHCは、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)の3つを企業活動の判断基準としてKAITEKI※を実現するという大きな方針・目標を掲げ、取り組みを始めています。具体的には、従来の経営の価値判断に、MOS(Management of SUSTAINABILITY)という新しい価値基準の軸を加え、目標設定とアクションプランの実行を推進しています。また、三菱樹脂グループでは、MOS価値向上に向けた取り組みの一環として、KAITEKIな社会に貢献できる製品をコンフォート・Plus商品として独自に選定し、2015年度の売上目標を定め、その売上の拡大への取り組みを行っています。

※ KAITEKIとは、人間にとっての心地よさ、社会にとっての快適、地球にとっての快適をあわせ持ったもので、真に持続可能な状態を意味します。



MCHCのKAITEKI経営

## CSRレポートを発行

2011年度のCSRレポートは、地球資源の確保(紙の削減)と、より多くのステークホルダーの皆様にご覧頂きたいとの考えから、WEB版での発行と致しました。社会貢献・コンプライアンス推進・リスク管理・安全環境・人権啓発という5本柱で取り組んでいる三菱樹脂グループのCSR活動やコンフォート・Plus商品の紹介などを是非ご覧頂ければと存じます。

## より豊かな社会づくりへの貢献

私たち三菱樹脂グループの企業理念は「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」ことです。中期経営計画「APTSIS15・Plus」では、当社として大きく育てていく事業を“創造事業”として位置づけ、重点投資により、創造事業を大きく拡大させていきます。この創造事業には、太陽電池の進化に貢献するパリアフィルム・太陽電池部材や、電気自動車には欠かせないリチウムイオン電池用セパレータ、さらには省エネ部材として期待される水蒸気吸着材「AQSOA®」等があり、地球環境の維持や持続可能な社会の構築に欠かせない製品群です。当社の優れた技術開発力から生み出されるこれらの商品を通じて、社会に広く貢献すること、それはまさに私たちの経営理念の実現に他なりません。より豊かな社会づくり、そしてKAITEKIの実現に向けて、本業を通じてのCSRに今後も取り組んでまいります。

2012年9月  
取締役社長 姥貝卓美

## 特集：コンフォート・Plus商品

三菱樹脂グループは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループが提唱するKAITEKIというコンセプトに基づき、企業活動をしています。KAITEKIとは、人にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真に持続可能な状態を意味します。MCHCグループでは、このKAITEKIの実現に向けて、従来の経営指標に加えて、新たな指標として、MOS (Management of SUSTAINABILITY) 指標を導入し、その取り組みを始めています。

このMCHCグループのMOS指標において、三菱樹脂グループは、「より快適な生活のための製品の開発・生産」というComfort指標に関して、特に貢献度が高い製品を「コンフォート・Plus商品」として独自に定め、58製品を選定しました。2015年度にはこれらの製品の売上高を2010年度比で約2.5倍となる2,000億円以上に伸ばすことを目指しています。

### 「コンフォート・Plus 商品」の選定基準(以下、1~3の全てを満たすもの)

#### 1. 次のキーワードのどれか(又は複数)を満たす商品

6つのキーワード:「お客様にとっての利便性」、「耐久性」、「機能効率」、「多様性」、「表現力や五感」、「清潔性の向上」

#### 2. プラスαの価値や三菱樹脂らしさを提供する商品

キーワード例:トップシェア、三菱樹脂の独自技術、植物由来など

#### 3. 将来への変化を示す商品

各事業部・部のポートフォリオの中で成長、創造に位置づけられる商品

※「KAITEKI」、「MOS」の詳細は、MCHCの社会的責任に関するページをご参照下さい。

## 【コンフォート・plus商品】

### 次世代エネルギーの進化に貢献 超ハイガスバリアフィルム「X-BARRIER®」

#### 薄膜型太陽電池などの革新をサポート

フィルムタイプの太陽電池に欠かせない高機能多層フィルムとして、シリカ蒸着フィルム「テックバリア®」で培った技術を発展させ、世界最高水準の水蒸気バリア性を付与した超ハイガスバリアフィルムです。太陽電池のセルの劣化を防ぐために、ガラス並みのバリア性を実現したことによって、プラスチックフィルムによる薄くて軽い、フレキシブルな太陽電池が可能となります。

▶ [太陽電池部材の製品ページ](#)



## 省エネルギーに貢献 **ゼオライト系水蒸気吸着材「AQSOA®」**

### 優れた水蒸気吸脱着能力で省エネとCO<sub>2</sub>排出量削減を実現

低温で水蒸気を放出することができる独自のゼオライト系水蒸気吸着材です。水蒸気を吸着・脱着する性質を利用しているデシカント空調機や吸着式冷凍機などに使用されています。独自の素材設計によって、一般的なゼオライトやシリカゲルに比べて低温で水蒸気を放出することが可能なため、工場の低温排熱や太陽光熱エネルギー、コジェネレーションの排熱などを熱源に利用でき、省エネルギーやCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献します。

- ▶ [AQSOA®デシカント空調機製品ページ](#)
- ▶ [AQSOA®吸着式冷凍機の製品ページ](#)



## 環境に配慮したクルマづくりに貢献 **結晶質アルミナ繊維「マフテック®」**

### 優れた耐熱性で、自動車の排ガス浄化装置の触媒担体やフィルターを保護

アルミナとシリカを化合して作られるアルミナ繊維は、耐熱性に優れ、超高温下でも安定した機能を発揮します。昨今、新興国を含め世界各国で自動車や建機の排ガス規制が強化される中、排ガス処理装置の高機能化が進んでいます。世界トップシェアの「マフテック®」は、排ガス処理装置の触媒担体やフィルターをサポートするクッション材として使用され、エンジンから出る熱や走行中の振動、衝撃から保護し、自動車のクリーンな排気を支えます。

- ▶ [マフテック®の製品ページ](#)



## 安全安心な野菜の安定供給

人工光を利用して苗を生産するシステム「苗テラス<sup>®</sup>」と、環境を制御した農業ハウスで栽培する太陽光利用型植物工場を組み合わせたシステムは、定時、定量、定品質、定価格で、減農薬の安全安心な野菜を消費者に提供します。この新しいビジネスモデルは、農家の経営を安定させることができ、競争力がある強い農業の確立を支援するものです。若者や異業種の農業への参入を促し、農業の担い手不足の問題解決にも貢献することが期待されています。

- ▶ [太陽光利用型植物工場の製品ページ](#)



農業の6次産業化に向けた  
トータルソリューション

## 非枯渇性資源の有効利用

トウモロコシなどの植物資源からつくられるバイオマスプラスチックです。三菱樹脂は、優れた加工技術を活かして、植物由来樹脂をフィルム、シートなどの多様な商品に加工しています。二酸化炭素の排出を抑制し、限りある化石資源を節約する、環境に配慮した商品として期待されています。

- ▶ [エコロジー<sup>®</sup>の製品ページ](#)
- ▶ [PLABIO<sup>®</sup>の製品ページ](#)



バイオマス  
プラスチックの  
原料となる  
トウモロコシ

植物由来の原料を  
使った商品を開発

Comfort・Plus商品一覧

<p>高機能フィルム関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共押出多層フィルム「ダイアミロン<sup>®</sup>M・MF」</li> <li>・ ポリ乳酸系ラベル用シュリンクフィルム「PLABIO<sup>®</sup>」</li> <li>・ ハイバリアPETボトル</li> <li>・ 把手付ボトル</li> <li>・ 食品包装用ポリオレフィン系ストレッチフィルム「ダイアラップ<sup>®</sup>スーパー」</li> <li>・ 植物系フィルム・シート「エコロジー<sup>®</sup>」</li> <li>・ 光学用透明粘着シート「クリアフィット<sup>®</sup>」</li> <li>・ 透湿性フィルム「KTF」</li> <li>・ PTP包装用防湿シート「ビニホイル<sup>®</sup>」</li> <li>・ ポリオレフィン系樹脂柔軟性フィルム「アートプライ<sup>®</sup>(太陽電池用)」</li> <li>・ 二軸延伸ポリエステルフィルム「ダイアホイル<sup>®</sup>(太陽電池用、タッチパネル用など)」</li> </ul>
<p>環境・生活資材関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅用温水式高効率床暖房マット</li> <li>・ 給水給湯システム配管</li> <li>・ FRP製水槽「ヒシタンク<sup>®</sup>」</li> <li>・ 土壌侵食防止ブロックマット「ゴビマット<sup>®</sup>」</li> <li>・ 盛土補強ジオグリッド「テンサー<sup>®</sup>」</li> <li>・ SGB・RGB工法</li> <li>・ CFRPプレート「eプレート」</li> <li>・ フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー<sup>®</sup>EC(導電)」</li> <li>・ クールボンド</li> <li>・ ポリカーボネートプレート「ステラ<sup>®</sup>」</li> <li>・ 透湿防水シート「アウトール<sup>®</sup>」</li> <li>・ 防湿気密フィルム「インバリア<sup>®</sup>」</li> <li>・ 生分解マルチフィルム「カエルーチ<sup>®</sup>」</li> <li>・ 植物工場「トマトリーナ<sup>®</sup>」「ナツパーランド<sup>®</sup>」「苗テラス<sup>®</sup>」</li> <li>・ 薬用植物</li> <li>・ 機能フィルム「メガクール<sup>®</sup>」</li> <li>・ 農業ハウス用・耐久農POフィルム「ダイヤスター<sup>®</sup>」</li> <li>・ 灌水資材「エパフロー<sup>®</sup>」</li> <li>・ 人工芝「アストロターフ」</li> <li>・ 水処理関連商品「ラバント」など</li> </ul>
<p>高機能成形材・部品関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内外装用アルミ樹脂複合板「アルポリック<sup>®</sup>Fr」「アルポリック<sup>®</sup>A2」「アルポリック<sup>®</sup>Gioa」</li> <li>・ 樹脂フィルム積層鋼板「ヒシメタル<sup>®</sup>EX-DR」</li> <li>・ アルミ押出材、高純度アルミ、高熱伝導材、KN材</li> <li>・ 石炭ピッチ系炭素繊維「ダイアリード<sup>®</sup>」</li> <li>・ 結晶質アルミナ繊維「マフテック<sup>®</sup>」</li> <li>・ プラスチック製コンテナ「ヒシコンテナ<sup>®</sup>」</li> <li>・ フィルタープレス機用PP製圧搾濾板「フィルタープレート」</li> <li>・ 人工関節用支持材「MediTECH」</li> <li>・ ガラスマット強化熱可塑性樹脂複合シート「GMT」</li> <li>・ ガラスマット強化熱可塑性樹脂複合シートの軽量化版「LWRT」</li> </ul>
<p>新規事業関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゼオライト系水蒸気吸着材「AQSOA<sup>®</sup>」</li> <li>・ 高機能コンポジット「AFC」</li> <li>・ リチウムイオン二次電池用セパレータ「セパレント<sup>®</sup>」</li> <li>・ 超ハイガスバリアフィルム「X-BARRIER<sup>®</sup>」</li> </ul> <p>※ 新規事業関連分野に該当する全商品(上記の4製品以外も含む)が対象となります。</p>

※ 記載を省略している製品もございます。

## KAITEKIの実現

三菱樹脂グループは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの一員として、KAITEKI※の実現をめざしています

※ KAITEKIとは、人にとっての心地よさに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真に持続可能な状態を意味する考え方です。21世紀に企業が追究していくべきコンセプトとして、私たち三菱ケミカルホールディングスが世界に提唱しているものです。

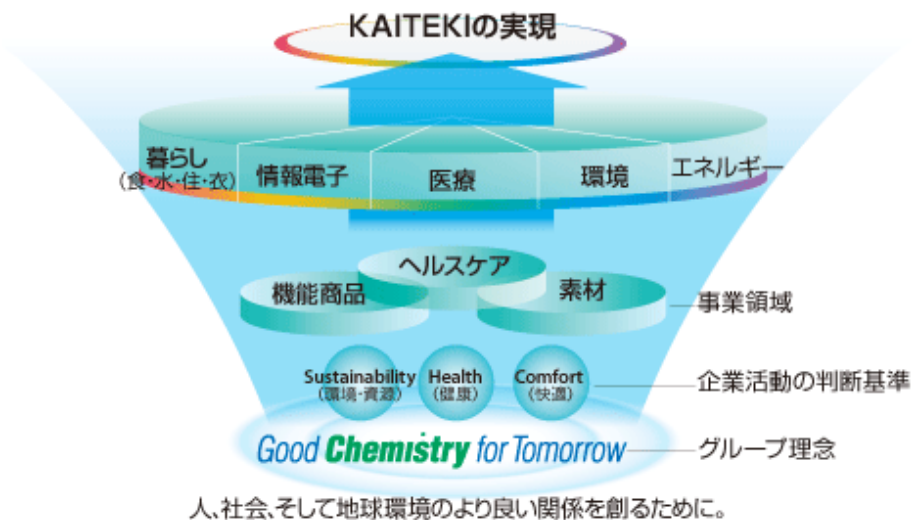
### 三菱ケミカルホールディングスグループの 社会的責任の基本的な考え方

Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)を  
企業活動の判断基準として  
KAITEKIの実現に貢献していきます

私たちは、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow – 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)を判断基準としたすべての企業活動を通じて、広く社会にKAITEKI価値を提供することがKAITEKIの実現であり、私たちの社会的責任であると考えています。

この思いを具現化していくために、KAITEKI価値の向上に欠かすことのできない、企業活動の基盤となる企業統治、安全・環境、雇用・人権などの活動を推進・強化し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

私たち、MCHCグループのありたい姿



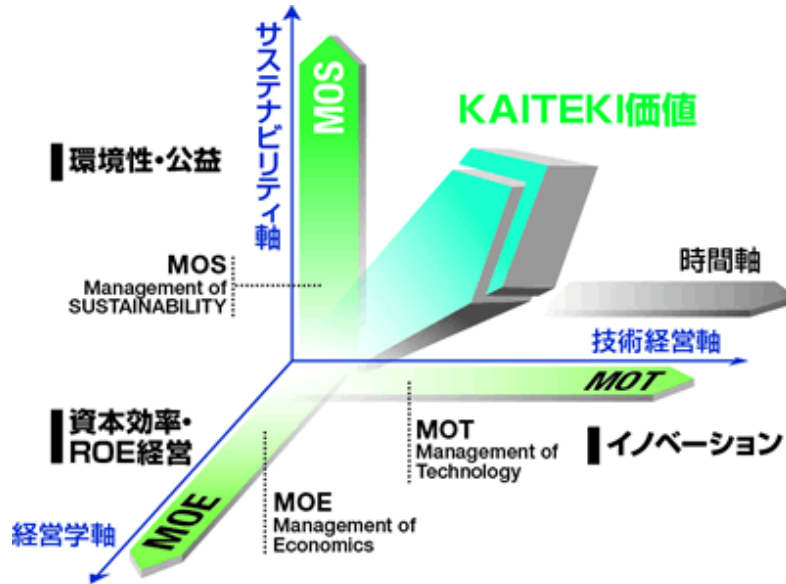
▶ [MCHCの社会的責任に関するページへ](#)



## KAITEKI経営の推進

三菱ケミカルホールディングスグループは、地球規模での課題解決が求められる中で、企業が持続的に発展していくためには収益追求だけでなく新しい経営機軸が不可欠であるとの考えのもと、地球・人類・社会の持続可能性への貢献度を数値化して管理する「MOS (Management of SUSTAINABILITY) 指標」を導入しています。

営業利益や総資本利益率など財務指標を用いて資本効率を重視する経営学的な軸(MOE軸)と、革新的な技術を能動的に生み出すための技術経営的な軸(MOT軸)に、「MOS指標」によるサステナビリティ軸を加え、時間軸も含めた4次元経営の推進と3つの軸から生み出される価値を「KAITEKI価値」と名づけ、事業活動を通して、その向上をめざしています。



MCHCのKAITEKI経営

- ▶ 特集 KAITEKIへの取り組み「コンフォート・Plus商品」

## CSRマネジメント

「CSR経営の完遂」を経営方針として定め、CSRの5本柱に基づく活動を強化しています

### CSRの五本柱

三菱樹脂グループは、「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」という企業理念のもと、CSR経営の完遂を経営方針として定め、その実現に向けて「社会貢献」「コンプライアンス推進」「リスク管理」「安全環境」「人権啓発」の5本柱に基づく活動を展開しています。私たち三菱樹脂グループは、CSR経営を通じてお客様をはじめ社会から広く信頼される企業グループとなることをめざし、更なる活動に取り組んでまいります。



以下の取り組みに関する詳細は下記リンクからご覧下さい。

- ▶ [コンプライアンスの推進](#)
- ▶ [リスク管理](#)

### CSR推進体制

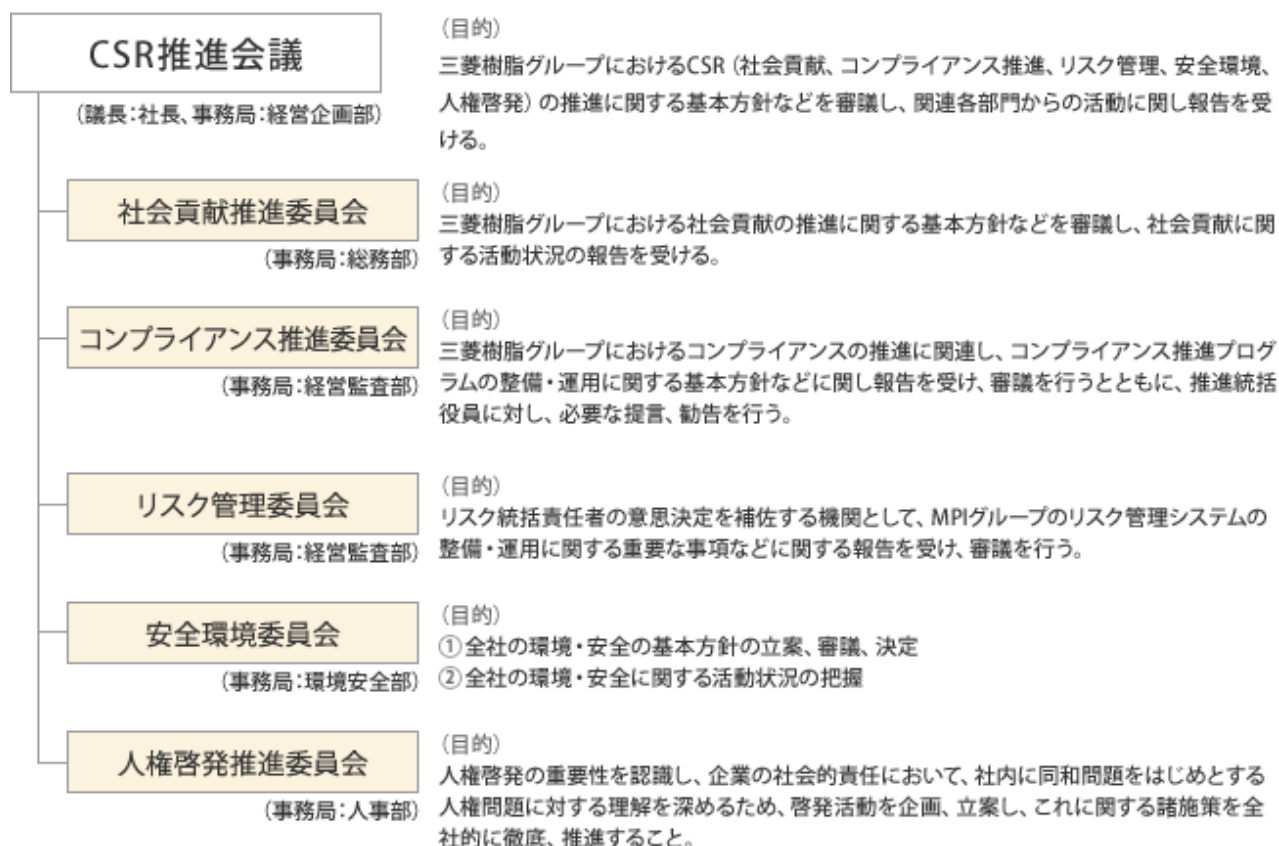
CSR経営の完遂に向けて、社長を議長としたCSR推進会議を設置しています。CSR推進会議では、CSRの5本柱(社会貢献、コンプライアンス推進、リスク管理、安全環境、人権啓発)に関する方針などを審議しています。また、同会議のもと、5本柱に対応する5つの委員会を設けてCSR活動を強化しています。



CSR推進会議

三菱樹脂グループでは、5つの委員会体制でCSR活動を推進しています。

各委員会委員長は、原則として取締役の中から任命する。



## コンプライアンスの推進

### 三菱樹脂グループは、グループ一体となってコンプライアンスを推進しています

三菱樹脂グループでは、「コンプライアンス」を法令だけではなく企業倫理を含めた社会のルールを遵守するという意味で使用しています。また、コンプライアンスを徹底するために「三菱樹脂グループコンプライアンスガイドライン」を制定・冊子化し、全グループ従業員に配布し、共通認識を深めています。

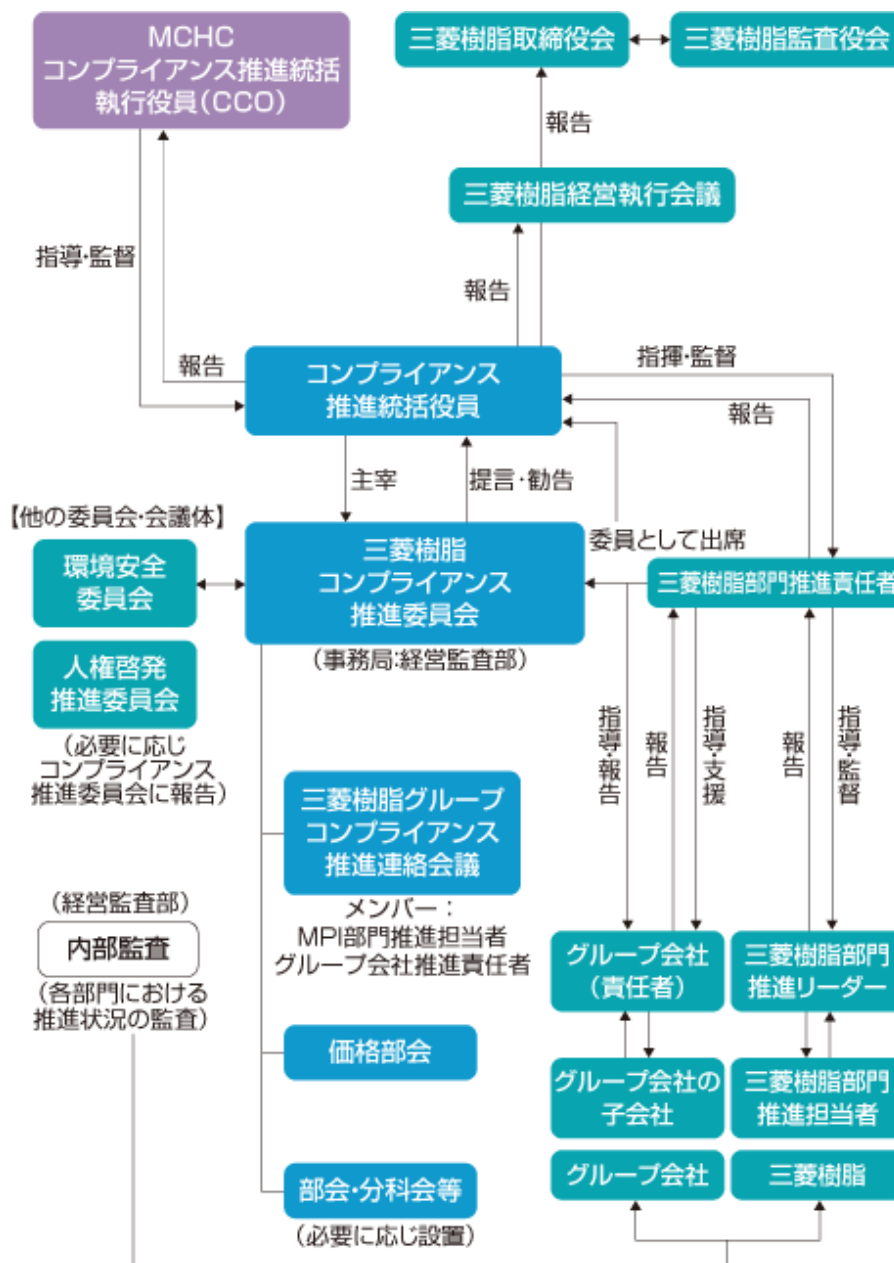
### コンプライアンスの推進体制

コンプライアンス推進統括役員のもと、コンプライアンス推進委員会を設け、三菱樹脂グループコンプライアンス推進連絡会議などを開催するとともに、部門コンプライアンス推進責任者・同推進リーダー・同推進担当者および推進事務局を設置しています。また、従業員の相談窓口としてコンプライアンス・ホットラインを社内と弁護士事務所に設置しています。



三菱樹脂グループ コンプライアンス推進連絡会議

三菱樹脂グループ・コンプライアンス推進体制図



## コンプライアンス研修の充実

新入社員をはじめとして、各階層別や職制としての課長・GLを対象とした様々な研修を実施しています。また、E-ラーニングを使用した全グループ従業員を対象としたコンプライアンス自主研修も開催しています。さらに、毎年11月はコンプライアンス強化月間として、外部講師を迎えて、各種の法令遵守にとどまらないコンプライアンス全般についての講演会を開催し、社長をはじめ役員(グループ会社含む)、管理職を中心に多くの社員が参加しています。



【講演会】 関東学院大学経済学部 小山巖也教授  
演題:「企業不祥事防止のツボ」

## コンプライアンスの基本

コンプライアンスの推進・確保のために、三菱樹脂グループ従業員に配布される冊子「三菱樹脂グループコンプライアンスガイドライン」において、グループ構成員の責務として5つの基本を守るよう、要請しています。

### グループ構成員の責務

- 1** 日々の業務の遂行にあたり、関連する諸法令、「グループ・コンプライアンス共通規程」、自社の指針、規程、規則、基準、マニュアル類を正しく理解し、遵守すること
- 2** 日ごろからコンプライアンスに関する意識と感性を高め、会社が開催する講演会、研修等に積極的に参加すること
- 3** 日々の業務の遂行にあたり、自らの考えや行動にコンプライアンス上の問題がないか常に確認をするとともに、疑義を感じた場合には、直ちにその行動を中止し、会社に相談・報告すること
- 4** コンプライアンス違反に該当すると考えられる行為又はそのおそれがあると考えられる行為を知った場合には、これを黙認・放置せず、自社のホットラインなどの相談・報告制度を利用して、会社に相談・報告すること
- 5** 次に掲げることを理由として、自らが行ったコンプライアンス違反を正当化しないこと
  - 1) コンプライアンスについて正しい知識がなかったこと
  - 2) コンプライアンス違反を起こす意思がなかったこと
  - 3) 会社の利益を図る目的で行ったこと

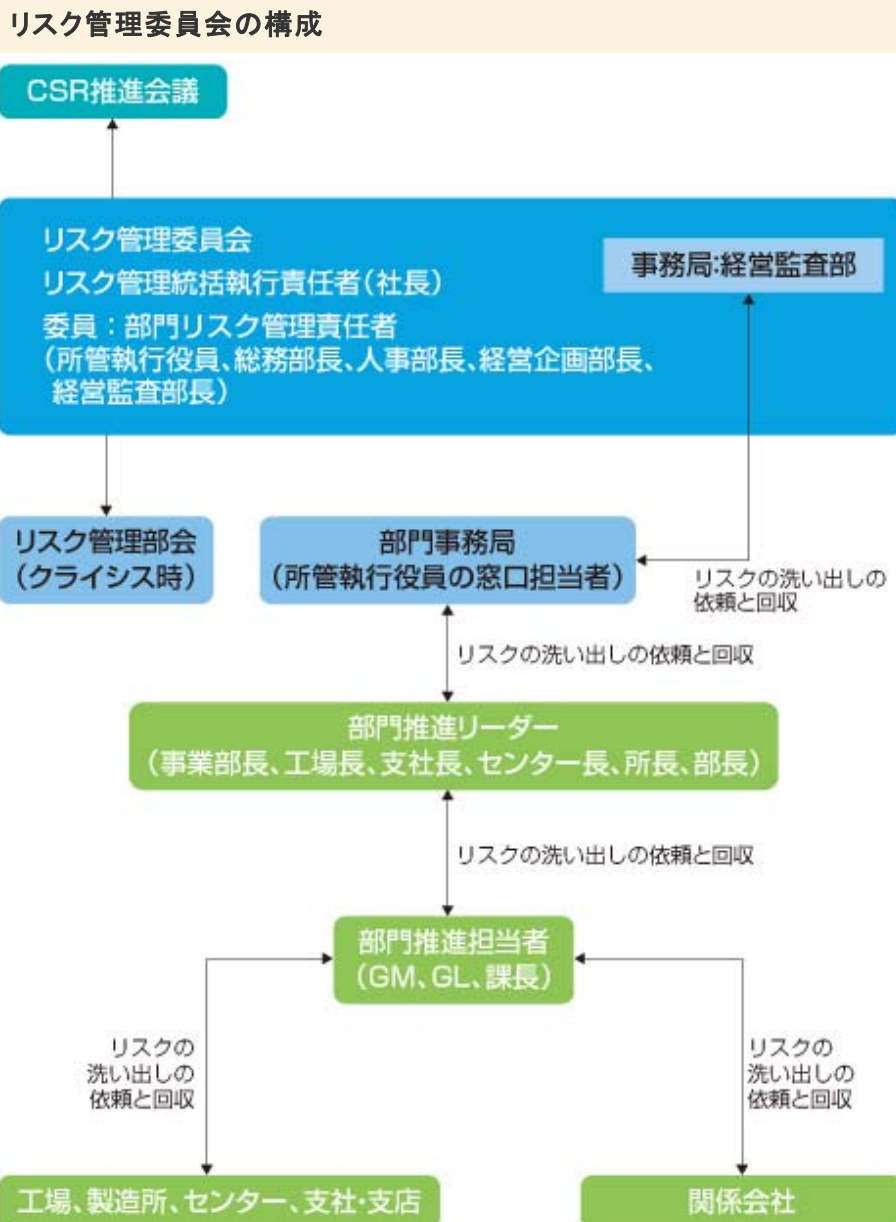
## リスク管理

### 専門委員会を設け、リスク管理を徹底しています

三菱樹脂グループ全体のリスクを管理するための組織としてリスク管理委員会を設けています。各事業部門は、事業上の現存リスクと潜在リスクを認識・分析・評価したうえで、その対策を立案し実行します。リスク管理委員会は、重大リスクの顕在化を防ぐとともに、万一リスクが顕在化した場合に備えて、人的・経済的・社会的損害を最小限にとどめるためのリスク最小化に取り組んでいます。

### リスクの洗い出し

社長をリスク管理統括執行責任者とするリスク管理委員会では、各部門に対して、年1回のリスクの洗い出しと評価・ランク付けの見直しを実施しています。さらに、経営監査部による定期的な内部監査を通じ、適切かつ円滑なリスク管理システムの運用を図っています。



## リスク対応策の立案と進捗の確認

---

2011年度に洗い出されたリスクの件数は、1764件(2010年度1578件)でした。事業を取り巻く環境が年々変化していることから、洗い出されるリスク件数も多いだけでなく、内容も複雑になってきています。そのため、各部門が洗い出したリスクに関する対策を立案・実行し、特に最重要・重要リスクに対してはアクションプランを作成したうえで、その進捗状況を専門委員会が定期的に確認する仕組みをとっています。

## リスク報告会の開催

---

リスク管理委員会は、洗い出したリスクの対応策をより具体化することを目的に、工場や営業拠点の部課長・GLに対して、リスク報告会を実施することを通じて、グループ構成員のリスク管理に対する意識を高めるなどの啓発に努めています。



## 社会とともに

三菱樹脂グループは、社会から信頼され共感を得られる企業を目指して、社会貢献をCSR経営の5本柱の1つに掲げ、次の理念に基づき体系的かつ継続的に行っています。

### 社会貢献活動理念

三菱樹脂グループは積極的に社会貢献活動を推進し、  
企業理念である、豊かな社会作りに貢献します。

## 活動事例

### 社員の活動



全員で取り組める活動として、エコキャップ運動やマッチングギフトに取り組んでいます。

### 地域での活動



各拠点では、地域社会に貢献すべく、清掃活動への参加や工場見学の実施、グラウンドの貸し出し等の活動に積極的に取り組んでいます。

### その他の活動



上記以外にも様々な社会貢献活動を実施しています。

## トピックス

### ▶ 東日本大震災の被災地への支援



## 社員の活動

三菱樹脂グループは、全国の拠点やグループ会社における社会貢献活動として、マッチングギフト（社内募金制度）やエコキャップ運動等に取り組んでいます。

### マッチングギフト制度（愛称：プラスくん募金）

社会貢献の一環として、NGO/NPO法人の各種活動に対する寄付制度（マッチングギフト制度、愛称プラスくん募金）を導入しています。この制度は、従業員個人がNGO/NPO法人実施の各種社会貢献活動に賛同し、寄付を行った際、会社が同額を上乗せして寄付するというマッチングギフト制度であり、従業員と会社が共同で、NGO/NPO法人を支援する仕組みになっています。また、単に募金を行うだけでなく、この活動を通じて、当社の従業員が国内外で起きている様々な社会問題を認識し、世の中に対し広い視野を持つことも目的としています。現在、以下の4つのNGO/NPO法人の国内外の事業に対して支援を行っています。



### プラスくん募金 ~三菱樹脂グループのマッチングギフト制度~

#### 募金一覧

オイスカ (OISCA)	TEST:オイスカは人材育成をベースに農業開発・環境保全など行っております。
ジョイセフ (JOICFP)	【Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning】～途上国の妊産婦と女性を守ります～
ピースウィンズ・ジャパン (peace winds JAPAN)	NGOの概要説明・支援内容 1996年に設立された東京に本部を置くNGO。世界の...
フローレンス (Florence)	【子育てと仕事の両立支援】 病児保育は子育て家庭の新しいライフラインです。

社内イントラネット上のプラスくん募金の画面

### エコキャップ運動

エコキャップ運動とは、キャップのリサイクルによる売却益を発展途上国へ送るワクチンに換えるという運動です。三菱樹脂グループは、このエコキャップ運動に賛同し、キャップの回収ボックスを設置し、運動に取り組んでいます。



本社



長浜・浅井工場

## 地域での活動

三菱樹脂グループは、地域社会に貢献すべく、地域の特性・ニーズに合わせた拠点毎の活動を実施しています。

### 清掃活動



長浜・浅井工場  
琵琶湖一斉清掃



平塚工場  
渋田川清掃



関西支社  
市街地清掃

### 工場見学の受け入れ

近隣の方々と様々な形でコミュニケーションを進めるため、地域住民の工場見学や学生の職場見学を受け入れています。



長浜工場  
地元高校の工場見学受け入れ



平塚工場  
地元小学校の工場見学受け入れ

### 課外授業への協力

課外授業への協力として、地元幼稚園・小学校や少年野球チームにグラウンドの貸し出し等を行っています。



長浜工場  
園外保育の受け入れ



平塚工場  
近隣小学生による構内でのドングリ拾い



郡山製造所  
地元少年野球チームへグラウンド貸出し

## その他の活動

三菱樹脂グループは、その他にも様々な社会貢献活動を実施しています。

### 献血

国内のみならず遠く海外においても、社会貢献活動として献血に協力しています。



本社



平塚工場



Mitsubishi Polyester Film社  
(アメリカ)

### 協賛

スポーツや芸術の振興を図るため、スポーツ団体の活動や地域のチャリティーコンサートに協賛しています。



湘南ベルマーレスポーツクラブの体育巡回授業への  
協賛



NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブが社会貢献活動として実施している小学校体育巡回授業の平塚市での活動に協賛しました。その協賛のもと湘南ベルマーレスポーツクラブは、2011年9月から4ヶ月間にわたり、平塚市の計26校の小学校、約3,100名の小学生を対象に巡回授業を開催いたしました。

## ■ 三菱広報委員会を通じた活動

三菱広報委員会は、子どもたちの識字教育支援と、絵日記を通じて交流の輪を広げることを目的とした活動「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を1990年より展開しています。当社も三菱広報委員会の一員として、この活動を支援しています。

### ▶ 三菱アジア子ども絵日記フェスタ



日本における2009年の展示会

## 東日本大震災の被災地への支援

三菱樹脂グループでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地への支援として、緊急支援物資(当社製品)の提供や従業員と会社のマッチングギフトによる募金の寄付、NPO法人と連携した従業員によるボランティア活動を実施しました。

また、被災地の一日も早い復旧復興に向けて、当社製品を優先的に供給するなど、製品の供給面でも支援を行いました。

### 緊急支援物資の提供

食品包装用ラップフィルム「ダイアラップ エコぴたっ!®」(50mの長巻品)10万本を、宮城県、岩手県、福島県の仮設住宅などに支援物資として提供しました。



食品包装用ラップフィルム「ダイアラップ エコぴたっ!®」

三菱樹脂グループのアストロ社が、特定非営利活動法人「ケアセンターやわらぎ」を通じて、宮城県の仮設住宅に人工芝「アストロターフ」を寄贈しました。なお、この人工芝は、玄関のスロープなどに使用されました。



アストロ社の人工芝「アストロターフ」

### 寄付

#### 三菱ケミカルホールディングスグループとしての寄付

三菱ケミカルホールディングスグループとして、自治体およびNPO法人に対して、1億円の寄付を行いました。

#### 従業員募金・会社マッチングを寄付

東日本大震災義援金募金活動を実施しました。従業員からの寄付金に合わせて会社も義援金を拠出(マッチングギフト制度)し、約1千4百万円を日本赤十字社および被災地復旧活動を行なっているNPO法人ピースウィンズ・ジャパンへ寄付しました。

#### 古本市の収益金を寄付

本社において、従業員から集めた古本を社内販売し、その売上金(約5万円)を公益社団法人シャント国際ボランティア会が実施する「いわてを走る移動図書館プロジェクト」(被災地の仮設住宅に本を届ける活動)に寄付しました。



## 従業員によるボランティア活動

### 被災地に送る支援物資仕分け

2011年6月本社ビルにおいて、従業員有志が岩手県大船渡市や陸前高田市の仮設住宅に送る支援物資(夏服)の仕分け作業をNPO法人ピースウィンズ・ジャパンとともに実施しました。



支援物資の仕分け



支援物資の荷積み

### 被災地でのボランティア活動

NPO法人ピースウィンズ・ジャパンの被災地での支援ボランティア活動に、三菱ケミカルホールディングスグループとして当社グループの従業員も参加しました。

期間:2011年7月~2012年3月

場所:岩手県(陸前高田市、大船渡市、釜石市)、宮城県(気仙沼市)

内容:仮設住宅への荷物搬入、ヒヤリング調査、ボランティアセンターで紹介された作業等

参加人数:208名(MCHCグループ全体)



段ボールの開梱と運搬作業



トラックで運ばれてきた支援物資

## 復旧復興のための製品供給

当社は、土木資材や建築資材、建築設備など、多くの製品を復旧復興資材として供給しています。

### 貯水タンク「ヒシタンク®」

震災による貯水タンクの漏水、破損状態の点検・確認、補修等への素早い対応を実施するべく、東北エリアへの人員増強をはかるとともに、仙台市内で運輸倉庫を借り、現地での出荷体制を構築しました。また、仮設住宅の皆様方に安全・安心な水をいち早く供給するため、製品の納入を優先しました。

貯水タンクは、震災などの緊急時に水源としてライフラインの源となります。これからも、防災の観点からも全国に普及するよう積極的な展開をまいります。



貯水タンク「ヒシタンク®」

### フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー®」

フレキシブルコンテナは、通常は主にプラスチックや化学工業品の運搬、保管に使用されているものですが、その優れた気密性や防水性から、放射能によって汚染された土の除染用途（運搬・保管）に使用されています。除染された土をフレキシブルコンテナに充填した後、中間貯蔵施設に運搬し、長期間にわたり保管されます。



フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー®」



## 地球環境とともに

### RC (レスポンシブル・ケア) 活動計画



RC活動の実践・強化で環境経営の実現をめざします。

### 環境負荷の低減



省資源化やゼロエミッション活動など、環境に配慮した事業活動を推進しています。

### 環境会計データ



環境負荷や環境保全に関わる費用と効果を定量的に測定し公開しています。

### 二酸化炭素排出量の削減



地球温暖化防止をめざして、二酸化炭素排出量などの削減に取り組んでいます。

### 環境貢献型商品



環境に貢献することができる商品を環境貢献型商品として定め、その開発及び販売に積極的に取り組んでいます。

## RC(レスポンシブル・ケア)活動計画

### RC活動の実践・強化で環境経営の実現をめざします

三菱樹脂グループでは、環境経営の実現をめざして、安全衛生活動を基盤に、環境に配慮したモノ造りと技術開発を推進するべく、RC(レスポンシブル・ケア)活動※に取り組んでいます。2011年度は新中期経営計画(APTSIS15・Plus)の初年度として、2015年度までの各年度目標を達成するための第一歩として活動の取り組みを開始しました。

※RC(レスポンシブル・ケア)活動:製品の開発や製造、使用、廃棄の全サイクルにおいて、環境や安全の確保を公約し、対策を行う自主管理活動のこと。

### 安全環境の取り組み

三菱樹脂グループは、新中期経営計画(APTSIS15・Plus、2011～2015年度)におけるRC活動計画として「安全で安心できるKAITEKI職場づくり！」を基本方針とし、2025年のありたい姿を実現するため、各年度目標を設定し、その活動を展開しています。

RC活動計画の2011年度の実績および2012年度と2015年度の目標

分野	項目	課題	2011年度実績	評価	2012年度目標	2015年度目標	
環境管理 活動強化	サステナビリティ 活動の推進	ゼロエミッション活動の 継続推進	ゼロエミッション率 0.6%	○	ゼロエミッション率0.6%	ゼロエミッション率0.3%	
		環境保全活動の推進	生物多様性への 取り組みに着手		○	評価方法の確立(MCHC)	各工場への展開
			LCA導入検討		○	評価実施のための人材育成	2012年度に目標設定
	環境貢献型商品の売り上げ 拡大	環境貢献型商品:対売上 高比率15%		×	環境貢献型商品:対売上 高比率16%	環境貢献型商品:対売上 高比率20%	
	環境 マネジメント システム管理	産業廃棄物中間処理 委託業者監査の徹底	監査率95%(97社)		○	監査率100%	監査率100%
		循環資源再資源化処理 委託業者監査の徹底	監査率100%(38社)		○	監査率100%	監査率100%
		土壌汚染管理の強化	土壌汚染監視継続		○	土壌汚染監視継続	土壌汚染監視継続
		行政届出管理の強化	不具合は正4件 (不具合率0.2%)		○	是正項目ゼロ	是正項目ゼロ
	環境管理 物質の 管理強化	環境管理物質管理 システム構築	管理システム化検討 開始		△	管理システム化検討	管理システム運用開始
	MOS指標 (S-1)管理	SOx,NOx,VOC, ばいじん,PRTR,全窒素	ほぼ前年並みの排出量		○	事業拡大の中、現状指標 を維持・継続する	事業拡大の中、現状指標 を維持・継続する
CO <sub>2</sub>		CO <sub>2</sub> 排出量337千トン		◎	事業拡大分から 21千トン削減 (CO <sub>2</sub> 排出量350千トン)	同左40千トン削減 (CO <sub>2</sub> 排出量350千トン)	
安全活動の 推進・定着	全社安全 成績の向上	休業労働災害“ゼロ”	休業労働災害3件		×	休業労働災害“ゼロ”	不休業以上の 労働災害“ゼロ”
		不休業以上災害の撲滅	不休業以上災害6件		×	不休業以上3件以下	
	安全活動強化	新安全パトロールの 活動強化	既存設備 全社平均 B+ 平均レベル4.1		○	全社平均 B+ 課長事前準備型重視	全部署 B+以上
		新設・改造設備 安全診断の継続・定着	246件の安全診断実施 対象全設備 B以上判定		○	全診断対象 計画時実施	全診断対象 B+以上
		現場管理基準7点セット 活動の浸透と活性化	全社平均:3.7 評価指標確立		◎	全部署新評価で 3以上	全部署 3以上維持継続
		決まったことを守る 風土作り・危険に対する 感受性向上	個人安全レベルチェック (試行)・各事業所ごとの 感受性向上活動		○	全社版RA要領試行評価、 制定 個人安全レベルチェック 継続 安全教育体系の整備	各部署作業標準の 見直し継続 個人安全レベルチェック (年1回の個人レベル 向上チェック) スタッフ安全教育実施 継続
	MOS指標 (C-3)管理	保安・環境・休業事故	保安・環境事故:0件		○	保安・環境事故 0件継続 休業度数率:0.2	保安・環境事故 0件 継続、休業度数率“0”の 達成(MCHC目標は 2015年0.23)
休業事故:3件				×			
休業度数率:0.3				×			

## 安全環境における2025年のありたい姿

三菱樹脂グループでは、「安全で安心できる職場環境の中、環境に配慮した商品を安定的に供給できる体制づくり」を方針に、2025年度のありたい姿を策定しました。

### 安全環境でのありたい姿(2025年)

分野	項目	2025年のありたい姿
環境配慮型 モノ造りの強化	環境負荷物質排出量削減	事業拡大に伴うCO2排出量を20%抑制（成り行き増比）。 他環境負荷物質排出量の現状維持（NOx、SOx、ばい塵、排水中全窒素、VOC）
	環境マネジメント推進	完全ゼロエミッションの達成 ゼロエミッション率0.0%
	環境マネジメントシステム強化	海外含むグループ全社構築
安全衛生活動 の定着	環境管理物質の管理強化	化学物質管理システム構築
	全社安全成績の向上	年間労働災害“ゼロ”の達成
	真に効果的な安全管理体制確立維持	RA※1を基本評価指標とする客観的な安全レベル把握により、 後戻りしない職場安全環境の実現、維持

※1 RA(リスクアセスメント)：危機の発生に際して、データに基づき、影響度を評価すること

## 環境負荷の低減

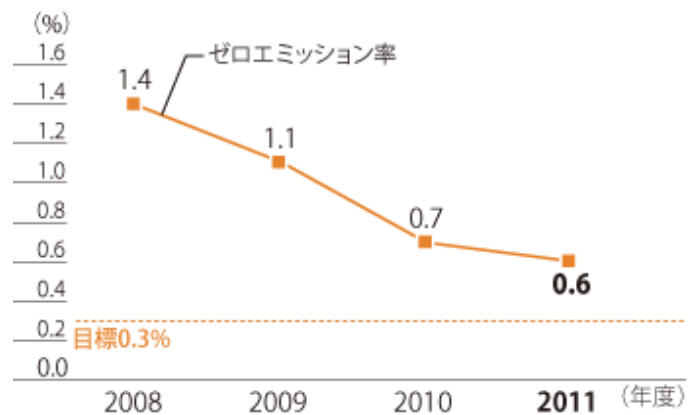
### 環境に配慮した事業活動の推進

三菱樹脂グループでは、製造部門での省資源化やゼロエミッション活動など、環境に配慮した事業活動を推進しています。そして、それらを確実に遂行するため、廃棄物処理の管理強化をはじめとした環境マネジメントの深化に努めています。

#### ゼロエミッションの推進

三菱樹脂グループでは、ゼロエミッション率を、2015年度までに「対象の全事業所で0.3%以下にすること」を目標に掲げて、埋め立てや単純焼却の削減に取り組んできましたが、2011年度は、ゼロエミッション率0.6%と向上しました。廃棄物の分別管理の徹底や処理先との連携強化、委託先の見直しなどを実施し、2015年度目標のゼロエミッション率0.3%に向け、さらなる挑戦を続けていきます。

ゼロエミッション率の推移



#### TOPICS

### 独自のゼロエミッション活動を展開

ゼロエミッション活動とは、1994年に国連大学が提唱した考え方で、産業界から排出される産業廃棄物などをゼロとするシステムの構築をめざす取り組みです。三菱樹脂グループでは、「ゼロエミッション率＝(埋立＋単純焼却)／総廃棄物量」と定義し、ゼロエミッション率の改善に向けて、各職場での分別管理の徹底や各事業所での処理委託先とのリサイクル化の検討、リサイクル可能な委託先の探索など、地道な努力を続けています。

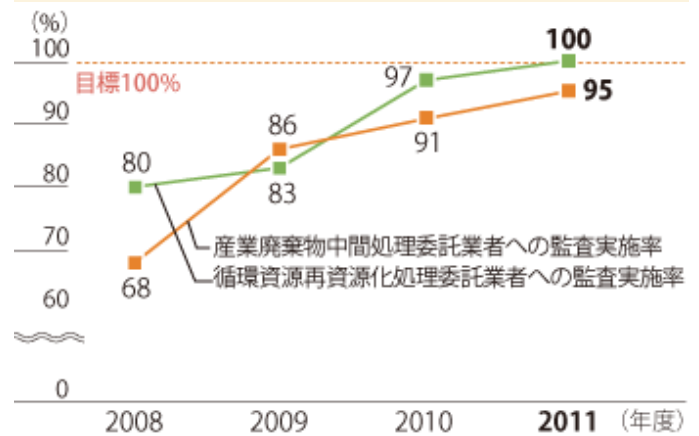


環境安全部長  
廣部 清和

## 処理委託業者への監査

三菱樹脂は、産業廃棄物の適正な処理や再資源化を徹底するため、中間処理委託業者や再資源化処理委託業者への監査を年1回の実施を目標に進めています。2011年度の産業廃棄物中間処理業者の監査実施率は、95%（監査対象97社、監査実績92社）でした。また、循環資源再資源化処理委託業者の監査実施率は100%（監査対象38社、監査実績38社）でした。今後も中間処理業者の監査実施率100%、再資源化処理委託事業者の監査率維持（100%）を目標に、継続的に努力していきます。

産業廃棄物中間処理委託業者及び循環資源再資源化処理委託業者への監査実施率



## 再資源化への取り組み

2011年度の再資源化率は99.4%で、熱エネルギーとして回収するサーマルリサイクル率は13.4%、原料として再利用するマテリアルリサイクル率は86.0%でした。

なお、三菱樹脂グループが生産・販売している製品についても、関連団体を通じた回収を実施するなど、その再資源化を進めています。たとえば、アルミと樹脂の複合板「アルポリック®」は廃材の再生処理について環境大臣の認定を受けており、全国から廃材を回収し、再資源化を行っています。

再資源化率



マテリアルバランスの状況

INPUT			
原材料	エネルギー/用水	包装材料	燃料
プラスチック：237,149トン 金属類：57,820トン 化学素材ほか：65,073トン <b>合計：360,043トン</b>	購入電力：563GWh A重油：10,223kL 灯油：5,866kL 都市ガス：18,543万m <sup>3</sup> その他：13,232kL (原油換算：190,840kL) 上水道：213,000m <sup>3</sup> 工業用水：2,072,000m <sup>3</sup> 地下水：11,016,000m <sup>3</sup> <b>用水合計：13,301,000m<sup>3</sup></b>	段ボール：4,093トン 紙類：8,515トン プラスチック類：2,822トン 木材：4,021トン <b>合計：19,451トン</b>	ガソリン：178kL 軽油：11,585kL

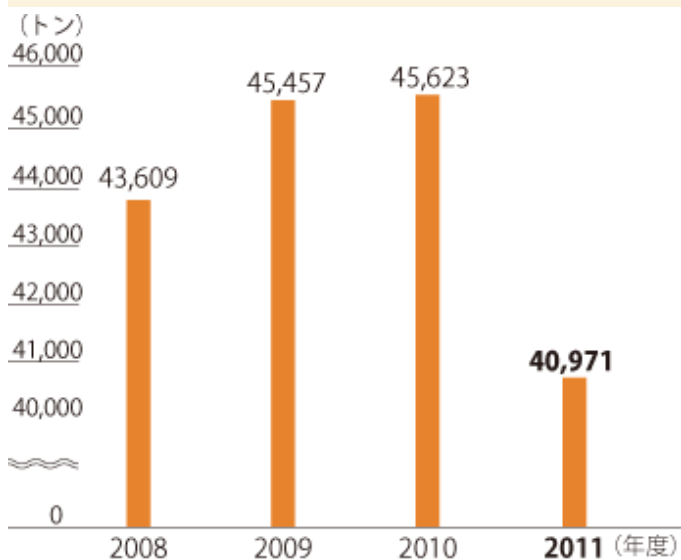


OUTPUT				
製品	大気	化学物質	廃棄物	排水
31万トン	CO <sub>2</sub> ：307,563トン-CO <sub>2</sub> NO <sub>x</sub> ：118トン SO <sub>x</sub> ：10トン ばい塵：12トン	PRTR 対象物質：34トン	再資源化量：40,723トン 単純焼却量：243トン 埋立処分量：6トン <b>総廃棄物量：40,971トン</b>	15,464m <sup>3</sup>

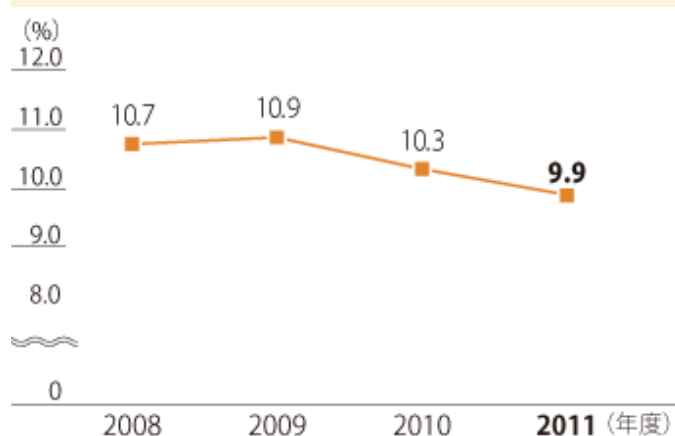
総廃棄物量の削減

生産量の減少(前年度比6.6%減)により、2011年度の総廃棄物量は、2010年度に比べて約4,600トン(7%)減少しました。

総廃棄物量の推移



廃棄物原単位推移

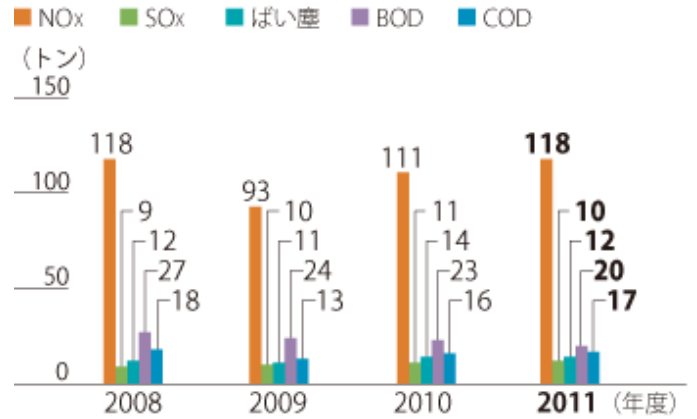


※廃棄物原単位 = (総廃棄物量 / 生産量) × 100

## 環境負荷物質の排出量の削減

事業が拡大する中、環境負荷物質の排出量を増加させないため、各事業所で環境負荷物質の排出量を削減するためさまざまな活動に取り組んでいます。2011年度の環境負荷物質の排出量は下図のとおり前年度とほぼ同じ排出量になりました。

環境負荷物質の排出量の推移



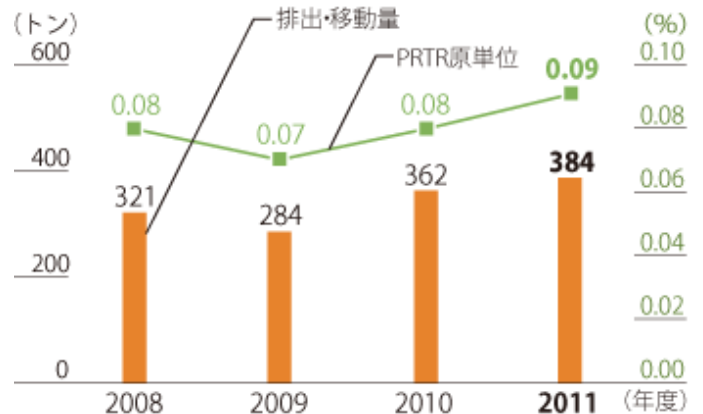
## 環境管理物質の管理

三菱樹脂では自社製品について、地球環境や人体に影響を及ぼす環境管理物質を管理し、使用禁止物質の商品への混入防止や環境管理物質の使用量削減に向けた取り組みを実施しています。国内の化学物質の審査および製造等の規制に関する法律(化審法)、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法/通称PRTR法)の対応だけでなく、国外においては、欧州REACH規制への対応の他、中国、台湾をはじめとしたアジア等の法規にも対応しています。また、国内・国外の化学物質管理ルールに対応するため、各事業部の環境管理物質責任者を中心に全社的な環境管理物質の管理システムの構築に取り組んでいます。

## PRTR対象物質の管理

三菱樹脂グループは、PRTR対象物質についても、適正な管理を徹底しています。2011年度のPRTR対象物質の排出・移動量は、384トンとなりました。法律で定められた排出・移動量などを把握することはもちろん、可能な限り有害物質の使用量削減に努めています。

PRTR原単位





## 2011年PRTR対象物質の実績

[トン(ダイオキシン類はmg-TEQ)]

PRTR No	名称	取扱量	使用量(製品)	有価物量(リサイクル)	排出・移動量					
					大気	水・土	廃棄物	2011	2010	差
1	亜鉛の水溶性化合物	5.2	5.2	0.0	0.00	0.00	0.03	0.03	0.04	-0.01
31	アンチモン及びその化合物	7.5	5.7	0.0	0.00	0.00	1.79	1.79	2.27	-0.48
53	エチルベンゼン	81.7	58.7	0.0	0.02	0.00	22.98	23.00	26.25	-3.25
76	ε-カプロラクタム	2,922.6	2,770.8	6.7	0.23	0.00	144.92	145.15	79.67	65.48
80	キシレン	800.5	145.6	0.0	615.06	0.00	39.80	654.86	577.81	77.05
88	6価クロム化合物	1.9	1.8	0.0	0.00	0.00	0.11	0.11	0.09	0.02
204	ジフェニルエーテル	5.1	0.0	0.0	0.00	0.00	5.09	5.09	4.61	0.48
207	2,6-tert-ブチル-4-クレゾール	7.9	7.5	0.4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
239	有機錫化合物	76.3	70.8	5.4	0.00	0.00	0.10	0.10	0.13	-0.03
240	スチレン	528.6	527.6	0.0	0.42	0.00	0.56	0.99	0.89	0.10
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	32.3	18.8	0.0	2.23	0.00	11.25	13.48	13.19	0.29
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	10.6	6.4	0.0	0.64	0.00	3.50	4.14	3.85	0.29
298	メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート	9.4	9.4	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
300	トルエン	826.9	761.0	0.0	17.78	0.00	48.11	65.88	64.09	1.79
305	鉛化合物	422.0	421.0	0.6	0.00	0.00	0.33	0.33	0.15	0.18
340	ビフェニル	1.8	0.0	0.0	0.00	0.00	1.79	1.79	1.62	0.17
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	4,564.1	4,376.6	176.8	2.16	0.00	8.54	10.70	13.69	-3.00
356	フタル酸nブチルベンジル	12.0	11.9	0.0	0.00	0.00	0.10	0.10	0.09	0.01
374	フッ化水素及びその水溶性塩	2.3	0.0	0.0	0.00	0.00	2.37	2.37	2.55	-0.18
411	ホルムアルデヒド	1.2	0.8	0.0	0.01	0.00	0.40	0.41	0.48	-0.07
413	無水フタル酸	3.1	3.1	0.1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
447	メチレンビス(4,1-シクロヘキシル)=ジイソシアネート	0.5	0.5	0.0	0.00	0.00	0.01	0.01	0.16	-0.15
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	9.8	8.5	0.2	0.00	0.00	1.12	1.12	1.02	0.10
460	リン酸トリトリル	14.8	12.0	2.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
461	リン酸トリス(ジメチルフェニル)	1.2	1.2	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
243	ダイオキシン類(単位:mg-TEQ)	1,793.5	0.0	0.0	0.00	0.40	1,793.08	1,793.48	2,745.00	-951.53
合計		10,349.4	9,225.0	193.0	638.5	0.0	292.9	931.4	792.7	138.79

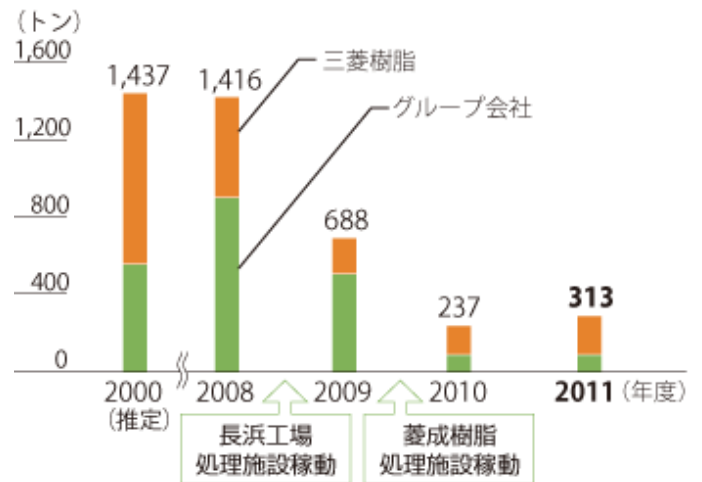
\*化学法改正により、新たに第一種指定化学物質となったもの。

## VOC(揮発性有機化合物)の削減

三菱樹脂グループでは、2008年に長浜工場、2009年に菱成樹脂社の金成工場(宮城県栗原市)にVOC※処理設備を設置しました。その結果、2010年度のVOC排出量は、2000年度比60%という削減目標を大幅に上回る84%を達成することができましたが、2011年度もVOC排出量は313トンに抑えることができました。

※VOC(Volatile Organic Compounds):揮発性有機化合物。大気中で気体となるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどの有機物の総称

### VOC排出量の推移



## 土壌汚染調査の実施

国内における当社および関係会社の生産拠点の土壌汚染調査については、2009年度に自主調査を終了しました。その結果、当社グループの生産拠点について問題がないことを確認しましたが、長浜工場の場外に保有する土地の地下水調査によりPCB含有油を検出し、2009年7月に自治体と地域住民の方々に報告を行いました。当社保有の敷地外には拡散していないことを確認後、拡散防止対策(遮水壁)を実施し、自治体と対応策を協議し、2010年12月から汚染土壌の入れ替え等の処置を開始し、2012年9月に処理を完了いたしました。



浅井工場での観測井戸の測定



## 工場の現場から

平塚工場では、観測井戸からの採水や敷地境界線付近の騒音などについての定期的な調査測定を行い、一般的な規制値よりも厳しい自社基準値を厳守することで、自然環境の維持・保護に努めています。また、上記の測定においては、機器等を用いたデータの把握を行う一方で、環境安全の担当者が1日2回、工場敷地境界線をパトロールし、大気や水質、騒音などの環境問題が発生していないかを巡視しています。さらに近隣住民の視点でチェックするパトロールも行うなど、環境を護るための様々なチェックを継続して実施しています。これらの環境保全(大気・水質・土壌関係)に関する過去10年間の地道な活動が神奈川県から評価され、平成23年度の神奈川県環境保全(大気・水・土壌関係)功労者表彰を受賞することができました。



真土排水路の  
日常パトロール



敷地境界での  
騒音測定

## Voice

### 従業員一同、地域との共生に努めています

平塚工場では、環境保全はもちろんのこと、『現場をよく見て、従業員とよく話し、従業員の声をよく聴き』をモットーとして、安全で働きやすい職場環境づくりに努めています。さらに、省資源・省エネルギーによる環境に配慮したモノ造りを継続的に推進し、地域と永く共生できる工場づくりに努めています。



平塚工場  
環境安全品証部長  
毎田 正雄

## 環境会計データ

### 環境保全コスト

[百万円]

分類	主な内容	2010年度		2011年度			増減	
		投資額	費用額	投資額	費用額	費用比率	投資額	費用額
事業 エリア内 コスト	公害防止	688	648	430	619	11%	-257	-29
	地球環境保全	108	720	796	1,284	23%	688	564
	資源調達	461	758	415	1,061	19%	-47	304
	小計	1,257	2,126	1,641	2,965	53%	384	839
上・下流コスト	廃材回収など	15	262	52	200	4%	37	-62
管理活動コスト	環境システム・環境教育	3	608	0	415	7%	-3	-193
研究開発コスト	環境配慮型商品開発	86	889	0	1,191	21%	-86	302
社会活動コスト	緑化・情報開示	0	22	0	22	0%	0	0
環境損傷コスト	土壌汚染修復	0	8	1	763	14%	1	755
合計		1,361	3,917	1,695	5,556	100%	334	1,640

### 環境保全効果(事業エリア内効果)

効果の内容	単位	2010年度	2011年度	増減
NOx排出量	トン	109	118	9
SOx排出量	トン	10	10	0
ばい塵排出量	トン	14	12	-2
BOD排出量	トン	22	20	-2
COD排出量	トン	15	17	2
CO <sub>2</sub> 排出量	トン	351,146	337,375	-13,771
電気使用量	GWh	631	621	-10
燃料使用量	トン	35,644	33,079	-2,565
蒸気使用量	トン	427,489	396,511	-30,978
用水使用量	km <sup>3</sup>	15,028	14,825	-203
廃棄物発生量	トン	26,797	26,412	-385
単純焼却・埋立処分量	トン	249	171	-78

## 環境保全経済効果

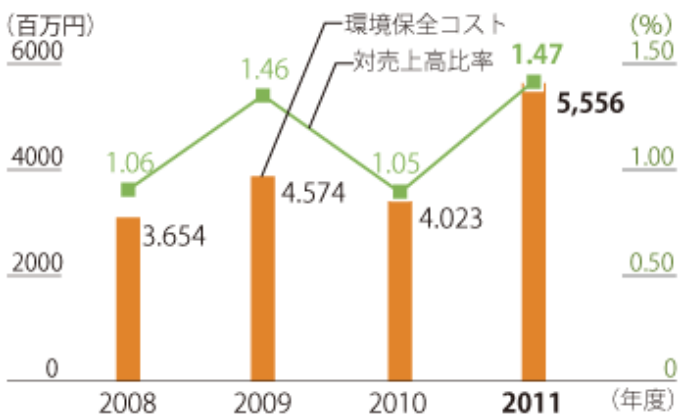
[百万円]

効果の内容		2010年度	2011年度	増減
収益	リサイクルによる有価物の売却額	486	534	48
費用節減	原材料費の削減額	331	511	180
	省エネルギー費用削減	104	146	42
	用水費用削減額	468	496	28
	廃棄物処理費用削減	121	21	-100
	環境損傷対応費用の節減	0	0	0
	その他費用の節減	10	17	7
	小計	1,034	1,192	158
合計		1,520	1,726	206

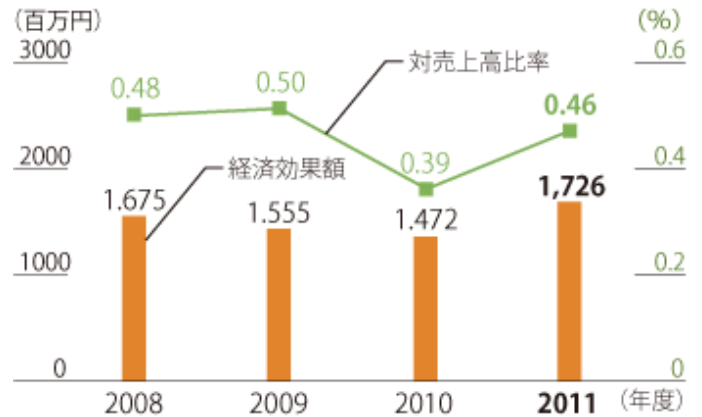
## 設備投資額と環境比率

項目	単位	2010年度	2011年度	増減
総設備投資額	百万円	19,278	17,052	-2,226
環境投資額	百万円	1,404	1,695	291
環境比率	%	7	10	3

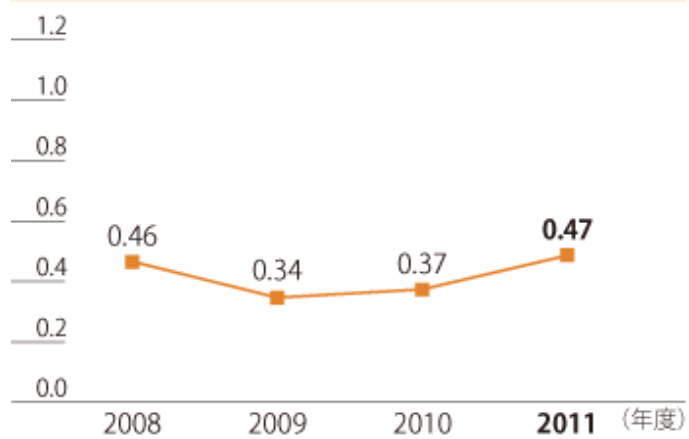
### 環境保全コスト対売上高比率



### 環境保全経済効果額対売上高比率



## 対環境保全コスト経済効果率

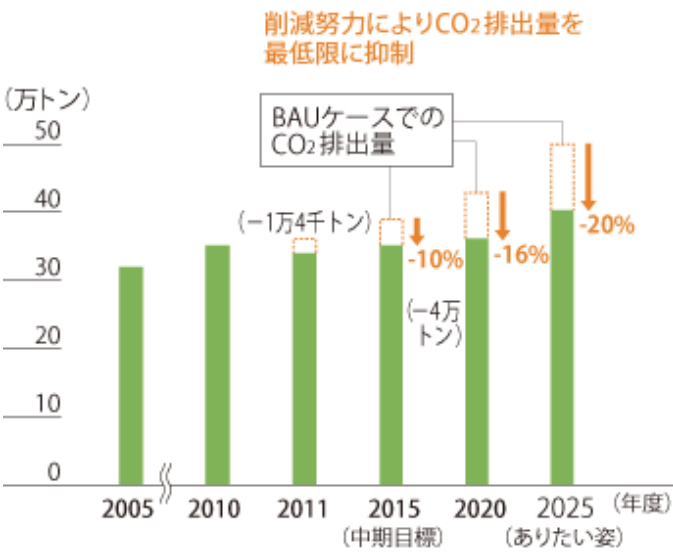


※対環境保全コスト経済効果率＝環境保全経済効果額／環境保全コスト

## 二酸化炭素排出量削減への取り組み

三菱樹脂グループは、地球温暖化防止をめざして、CO<sub>2</sub>排出量などの削減に取り組んでいます。高効率空調システムによる省エネルギー化や生産性向上、新エネルギーの導入などの積極的な取り組みを通じて、国内事業全体で2015年度までにBAUケース(対策を行わなかった場合に想定されるCO<sub>2</sub>の排出量)比で4万トン削減する目標を掲げています。2011年度は省エネ改善により約6千トンのCO<sub>2</sub>を削減し、全体のCO<sub>2</sub>排出量は生産量減少の影響も含めて、前年度実績から1万4千トンの減となりました。

### CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



ゼオライト系水蒸気吸着材「AQSOA®」を使用した冷暖房実証試験システム

### TOPICS

## 山東工場、ボイラーの燃料を重油から都市ガスに転換

フラットパネルディスプレイ向け光学用ポリエステルフィルムを製造する山東工場において、製造ラインの熱源として使用する蒸気ボイラーの燃料を、重油から都市ガスに切り替えました。都市ガスは、重油や灯油よりも発熱量ベースの二酸化炭素排出係数が小さいため、燃料を都市ガスに転換することで、二酸化炭素排出量を削減することが可能です。加えて、2012年上期までにVOCを燃焼処理する排ガス炉の燃料についても灯油から都市ガスに切り替えを実施しました。これらの燃料転換により、2010年度と比べ、ボイラーで年間約8,000トン、排ガス炉で年間約2,000トンの削減が可能となります。



山東工場



改造工事を実施したボイラー



## 物流の現場から

2011年度は「2010年度比でCO<sub>2</sub>排出原単位1%削減」を目標に掲げ、引き続き物流の効率化に取り組みました。具体的な施策を実行したケースでは原単位が低下しており一定の成果が見られたものの、震災後の販売の回復が鈍く、トラック積載率が前年度より低下したため、CO<sub>2</sub>排出原単位は全体としては前年度並みとなりました。2012年度は更に効率化を推し進め、2011年度比1%削減を達成します。



JRコンテナの利用



技術部  
物流革新グループ  
藤原健太



## 環境貢献型商品※

三菱樹脂グループは、「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」ことを企業理念に掲げ、社会の発展やより豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に鋭意取り組んでいます。そして、そのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献に繋がるものと考えています。そのため、私たちは、「省エネルギーに貢献している」、「持続可能な原料を使用している」などの基準「環境貢献型商品規格」を独自に設け、この基準に適合する環境貢献型商品の製造・開発に取り組んでいます。ここでは、「環境貢献型商品」の一部をご紹介します。

### 食品包装用ストレッチフィルム「ダイアラップ®スーパー」

食品包装用ストレッチフィルム「ダイアラップ®スーパー」は、燃やしても塩素系ガスを排出しない、ポリオレフィン系の素材を使用しています。一般的な塩化ビニル製のラップに比べて厚みが薄く、比重も小さいため、商品重量を約20%削減し(当社品比)、省資源化や廃棄物の削減に貢献しています。



### 農業用フィルム

三菱樹脂のグループ会社MKVドリーム社は、農業用フィルムリサイクル促進協会の一員として、農業用ビニルフィルムのリサイクルの推進に努めています。農業用ビニルフィルムは、ほぼ同じ材料でつくられているため、回収後にマテリアルリサイクルしやすく、リサイクル率は約71%となっています。



### アルミ樹脂複合板「アルポリック®」

2004年6月の環境大臣の認定(広域認定制度)に基づき、全国からアルミ樹脂複合板「アルポリック®」の廃材回収を行い再資源化を進めています。回収された廃材は、金属面材と樹脂芯材とに分離し、金属面材は再溶解、圧延して「アルポリック®」用面材として再利用します。樹脂芯材は粉碎して芯材原料として再利用します。



※環境貢献型商品（環境貢献型商品と環境配慮型商品について）

●環境貢献型商品

2011年に設定した新たな基準に合致する、環境へ貢献することができる商品群。

従来の環境配慮型商品の基準を踏まえ、自然エネルギー活用機器部材も対象としている。

No.	項 目	基 準
1	再生材料の使用	再生材料を30%以上使用
2	省資源	従来品に比べ、30%以上の省資源化を達成
3	回収エネルギー	従来品に比べ、30%以上の回収エネルギー利用を達成
4	廃棄物削減	従来品に比べ、30%以上の廃棄物削減化を達成
5	省エネルギー	従来品に比べ、30%以上の省エネルギー化を達成
6	省水資源	従来品に比べ、30%以上の省水資源化を達成
7	長期使用可能	従来品に比べて、1.5倍以上の長期使用が可能
8	再利用／再使用	2回以上の繰り返し仕様、または詰め替えができ回収・再使用が可能
9	リサイクル可能	複合材を50%以上含まず、リサイクルが可能
10	処理処分容易	廃棄時の処理が容易
11	植物由来原料使用	バイオマスプラスチック度：25%以上
12	生分解性／光分解性	物質が分解して環境に同化する材料
13	コンポスト可能	容易にコンポストとなり自然に同化する材料
14	エコマーク認定品	エコマーク認定品
15	エコ商品ネット掲載品	エコ商品ネット掲載品
16	業界・協会認証品	業界・協会認証品

●環境配慮型商品

三菱樹脂が、2002年に設定した基準に合致する環境に配慮した商品群。

No.	項 目	基 準
1	環境汚染物質の削減	指定物質を意図的に配合処方していないこと
2	省資源	従来品に比べ、30%以上の省資源化を達成
	省エネルギー	従来品に比べ、30%以上の省エネルギー化を達成
3	植物由来プラスチック原料使用	バイオマスプラスチック度：25%以上
4	長期使用可能	従来品に比べて、1.5倍以上の長期使用が可能
5	再使用可能	2回以上の繰り返し使用、または詰め替えができ、回収・再使用が可能
6	リサイクル可能	複合材を50%以上含まず、リサイクルが可能
7	再生材料の利用	再生材料を30%以上使用
8	処理処分の容易性	廃棄時の処理が容易

## 従業員とともに

### 安全衛生活動



「休業度数率ゼロ」の達成をめざし、安全衛生活動を強化しています。

### 人権啓発



人権啓発活動に関する基本理念のもと、従業員一人ひとりが、互いの人権を尊重し、明るく働きがいのある職場づくりを推進しています。

### ワークライフ・バランス



従業員一人ひとりの個性を尊重した、誰もが安心して働ける職場づくりに努めています。

### 人材育成



採用から育成まで一貫した仕組みを構築し、自ら考え自ら行動する人材の育成と全員参加型企業風土の醸成を図っています。

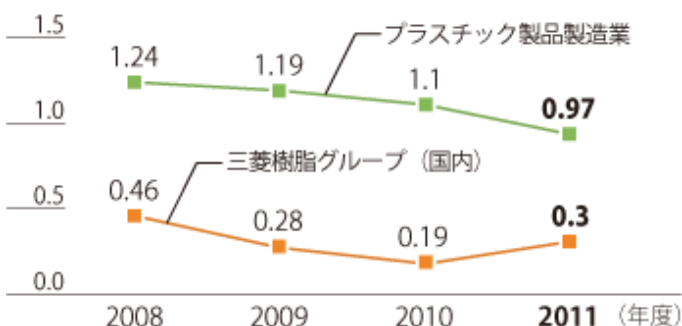
## 安全衛生活動

### 「休業度数率ゼロ」の達成をめざし、安全衛生活動を強化

三菱樹脂グループは、工場内常駐の協力会社も含めて、一体となった安全衛生活動を展開しています。2011年度は「休業度数率ゼロ」に再挑戦し、「新安全パトロール」(ハード対策)「現場管理基準7点セット(G7)活動」(ソフト対策)を柱に活動を継続しましたが、残念ながら3件の休業災害を発生させ、休業度数率※0.3と2年前の水準に戻ってしまいました。2012年度は活動を更に深耕し、ロール管理表等の新たな手法をスタートすることにより「休業度数率ゼロ」に再挑戦します。

※ 休業度数率: 100万労働時間あたりに発生する休業以上の災害数を表す災害発生率

#### 休業度数率推移



(出典:平成23年労働災害調査結果の概要)

## TOPICS

### 海外での安全活動

#### —Mitsubishi Polyester Film, Inc.—

米国でラベル用や包装用、各種工業用のポリエステルフィルムを製造・販売している Mitsubishi Polyester Film, Inc.社(MFA)は、労働災害ゼロを目標とし、さまざまな安全強化策を実施しています。

安全活動をさらに強化・徹底するために、MFAでは、「設備および作業環境の改善」、「安全基準とその管理」、「安全意識及び行動」について、継続的に改善活動に取り組んでいます。

たとえば、MFAの工場内では、場内の安全表示を統一し、衝突危険表示(黄縞)、注意表示(黄)、警告表示(橙)、危険表示(赤)といったように従業員が塗装色により危険箇所を認識できるようにしています。

全労働災害の95%以上が、作業者の不安全行動や安全意識の欠落からもたらされていると言われています。そこで、MFAでは、安全に対する認識や行動を改善するために、新SAFE START(カナダのエレクトロラボ社によって開発されたプログラム)を導入しています。この新SAFE STARTの概念や手法は、心理的要因によるエラーの減少に効果があると考えています。また、我々は新安全衛生委員会(ステアリング・コミティー)の下部組織として4つの委員会を設置し、従業員が行動面のみならず、安全意識の向上といった面から、全員参加型の安全活動に取り組んでいます。

こうした取り組み、特に全員参加型の安全活動が効果をあげてきており、設備や安全装置の改善、危険箇所の可視化や、危険感受性の向上につながっています。

今後も、アジア、ドイツのポリエステルフィルム製造拠点とも連携し、安全対策を強化してまいります。従業員の安全および健康は最優先事項です。事業の成功には、従業員に怪我をさせないことがあってこそというのが、我々の信念です。ゼロ災害は我々の永遠の課題です。



社内での安全教育の様子



Bill Radlein  
(ビル ラドライン),  
President & COO, MFA

## 新安全パトロール(ハード面対策)の取り組み

三菱樹脂グループは「新安全パトロール」、「新設および改造設備安全診断」の仕組みを運用して、ハード(=設備)の安全化を進めています。また、これらの仕組みの基盤として「設備安全設計要領」を制定・運用しています。新安全パトロールは、既存設備についてあらゆる危険源を抽出し改善を進める活動で海外拠点にも展開しています。2011年度はさらに非定常作業における設備的な危険源の抽出も開始し、改善を進めました。その結果、全部署平均で評価レベルB+(5段階評価の4に該当)を達成しました。2012年度も活動の深耕を継続していきます。一方、2011年度には重点的に対策を進めていたロール巻き込まれ災害を発生させてしまったため、現場ヒアリングを行い、洗い出された課題を解決すべく新たに「ロール管理表」を考案しました。2012年度には「ロール管理表」を運用開始し危険源抽出と改善に繋げていきます。新設および改造設備については稼働前に安全を確保するため「新設および改造設備安全診断」を実施しています。2011年度は246件の診断を実施し対象設備での労働災害はゼロで推移しています。2012年度も本活動を継続するとともに、一部の新設設備については設計時にも安全診断を展開していきます。これらの活動の基盤となる「設備安全設計要領」については、考え方および基準を周知・浸透させるため設計部門、製造部門を対象に教育を実施しました。2012年度以降も教育を継続していきます。

## 現場管理基準7点セット(G7)活動(ソフト面対策)の取り組み

三菱樹脂グループでは、労働災害に対するソフト面の対策として、「現場管理基準7点セット(G7)活動」を進めています。「現場管理基準7点セット(G7)活動」とは、「自分たちで決めたルールを確実に守ろう」という考え方にに基づき、現場ごとに管理ルールを定めて、表示識別を中心に現場を自主管理していくものです。2011年度は部署毎に目標を明確化し改善を進めていけるよう新たな管理方法を試行検討し、2012年度運用開始にこぎつけました。

### 現場管理基準7点セット(G7)活動の管理基準

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| ① 置き場所表示管理基準 | ⑤ 棚番表示管理基準      |
| ② 仮置き管理基準    | ⑥ スネークホース管理基準   |
| ③ 仮使用管理基準    | ⑦ インターロック表示管理基準 |
| ④ 不要物置き場管理基準 |                 |



新安全パトロール実施風景(国内拠点)



G7活動事例(海外拠点)



### 安全管理の現場から

私たちは「新安全パトロール」(ハード面対策)、「現場管理基準7点セット(G7)活動」(ソフト面対策)という独自の活動を展開することにより、労働災害を削減してきました。さらに、労働災害事例の分析結果を踏まえ、これらの活動に加えてヒューマン面の活動を充実させることにより製造現場の基盤をより強固にして、安全・安定・効率的な操業につなげていきたいと考えています。



環境安全部 GM  
山田 良夫

## 人権啓発

### 明るい働きがいのある職場づくりを推進

三菱樹脂グループは、人権啓発活動に関する基本理念のもと、三菱樹脂グループの従業員一人ひとりが、互いの人権、人格を尊重し、人種、性別、宗教などによる差別のない職場づくりに努めています。

### 基本理念

三菱樹脂グループは、以下の基本理念を定め人権啓発活動に努めています。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、人間としての尊厳と平等なる権利を有している。三菱樹脂グループの構成員は、人種、性別、宗教など、事由の如何を問わず、不当な差別を一切行うことがあってはならない。私達は、「相互信頼」のもとお互いの多様な個性・価値観を尊重し、差別のない明るい働きがいのある職場づくりを推進していく。

### 人権啓発に関する研修の実施

三菱樹脂グループでは、グループ各社の集合研修や支社・工場での部長会議などで人権研修を実施しています。2011年度は、延べ31回、620名が受講しました。また、三菱グループ各社で組織される「三菱人権啓発連絡会」や「滋賀同和問題企業連絡会」などに加盟し、人権全般にわたる情報収集や、同連絡会を通じた人権担当者の育成など、社外の方とも意見を交わしています。

なお、ハラスメントに関する方針を「コンプライアンスガイドライン」に定めるとともに、2012年度には「ハラスメント防止ガイドライン」を発行しました。従業員一人ひとりの理解の促進を図り、働き甲斐のある快適な職場環境の実現を目指しています。



人権啓発に関する研修

## TOPICS

### ～障がい者の雇用促進～

三菱樹脂グループでは、人権に配慮し、より多様な人材に活躍の場を提供する企業として、障がい者雇用率の向上を目指した様々な取り組みを行っています。職場におけるサポートや、就労のための支援を行うことで、障がいを持つ従業員の活躍の場を広げています。

## Voice

2011年4月に入社し、現在人事部で主に海外出張に関わる伝票発券業務や各種の資料作成業務を行っています。重度の視覚障がいがあり、文字の読み書きが困難ですが、スキャナーや音声読み上げソフトなどの支援機器を活用し、周囲の方々のサポートをいただきながら、日々の業務を行っています。今春新たにジョブコーチ支援制度を受ける機会をいただき、これまで利用が難しいと思われていた人事関係ソフトの使用が可能になりました。今後ますます仕事の幅を広げられるよう、工夫して担当業務を増やしていけたらと思っています。一方、プライベートでは、趣味でもあり得意とする水泳でリフレッシュし、国内外の大会にも出場しています。公私共に、障がいがあってもこれからも自分の可能性に挑戦し続けていきます。



人事部 人事グループ  
石浦 智美

## ワークライフ・バランス

### 働きやすい職場づくりに努めています

三菱樹脂では、ワークライフ・バランスに配慮した社内制度の整備を通じて、従業員一人ひとりの個性を尊重した、誰もが安心して働ける職場環境づくりに努めています。

### 公平な雇用機会の提供

三菱樹脂では、障がい者雇用率や女性管理職比率改善などを進めることで、多様な従業員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

障がい者雇用率



### 各種休暇制度

三菱樹脂では、従業員があらゆるライフステージで安心して仕事に取り組むことができ、かつその能力を十分に発揮できるよう、出産・育児休暇や介護休暇、ボランティア休暇、リフレッシュ休暇など、休暇制度の適正な整備・周知を通じて、従業員のワークライフ・バランスの実現をサポートしています。

各休暇制度の取得状況

年度	産前産後休暇	育児休業	介護休業
2009年度	17名	16名	1名
2010年度	14名	13名	0名
2011年度	17名	12名	0名

### Voice

#### 仕事と育児を両立し、充実した毎日を過ごしています。

会社の制度を利用し、育児をしながら仕事を続けています。育児をするようになってから、未来により良い環境を残したいとの思いがますます強くなり、KAITEKIの実現を目指して仕事をするに、より一層のモチベーションを感じるようになりました。仕事と育児の両立は大変ですが、職場の温かい支援もあり、時間の配分に気をつけながら仕事を進めることで、充実した毎日を過ごしています。



新規事業推進部  
AQSOAプロジェクト  
青山 沙織

## 長時間労働による健康障がいの防止

三菱樹脂では、労働組合との協議・手続きを経て、従業員の労務管理を行っています。また、基準を超えて時間外労働を行った従業員には、産業医との面談を義務付けており、過重労働による健康障がいの未然防止に努めています。

### 従業員データ

従業員の人数	2,855名
平均勤続年数	16.2年
継続雇用的人数	119名
平均の時間外労働時間	18.5時間／月

## 労使関係

三菱樹脂では、従業員組合として三菱樹脂労働組合が組織されています。常日頃から、労使の対話を通じて相互の情報交換を行うとともに、年2回開催する経営協議会では、経営の現状や課題を共有し、労使が進むべきベクトルをあわせています。

### 三菱樹脂労働組合の構成

年度	組合員数	平均年齢	勤続年数
2010年度	1,862名	36.1歳	13.7年
2011年度	1,860名	36.7歳	14.3年

## 福利厚生 の 充実

三菱樹脂では、従業員が安心して継続的に働けるよう、企業年金制度、寮・社宅制度、住宅購入時の融資制度など、各種福利厚生 の 充実に努めています。

## 産業保健スタッフによる取り組み

三菱樹脂では、産業医・保健師などが中心となり、従業員への健康支援サポートを実施しています。

心の健康面では、階層別研修にセルフケア、ラインケアを導入しています。また、定期的に従業員向けメンタルヘルス研修やストレス調査を実施し、従業員の健康状態の向上につとめています。長時間労働に伴う健診(面談)については社内基準を設け、従業員が確実に健診を受診できるようにしています。傷病による休業後の職場復帰についても、休業開始時からケアを実施したり、職場復帰プログラムを作成するなど、職場と人事部門が一丸になって職場復帰を支援しています。

身体の健康面では、健康診断・事後措置の徹底を進めています。健康増進策として、全社ウォーキングをはじめ、栄養バランスのとれた弁当をとりながら、生活習慣を解説する健康教室も実施しています。

私たち産業保健スタッフは、三菱樹脂で働く全従業員がKAITEKIIに働ける環境の形成と、「従業員が健康を最高の状態に育む」ことを目指しています。



産業保健スタッフ





## 人事の現場から

菱琵テクノ社は、三菱樹脂の生産を担う会社です。ワークライフ・バランス推進企業として、すべての従業員が仕事と子育てを両立し、働きがいをもって継続勤務できるような雇用環境を整備しています。子どもの看護休暇の取得率向上措置の実施や、男性1名以上、女性で70%の育児休暇の取得などの達成により、2009年には滋賀労働局より仕事・子育ての両立企業に認定されました。



中小企業として、  
滋賀県初の認定



認定証を受け取る菱琵テクノ社の  
柴田部長（京都新聞社ご提供）

## 人材育成

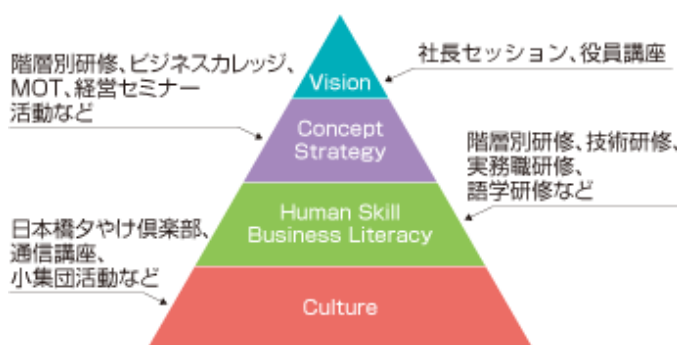
### 人を育て、事業を育てる ～個性を伸ばす能力開発～

三菱樹脂では、人材育成をグループの成長を支える重要な基盤であると位置づけています。採用から育成まで一貫した仕組みを構築するなかで、将来に向けてのさまざまな場面において、自ら考え自ら行動する人材の育成と全員参加型の企業風土の醸成を図っています。

### 人材育成の基本方針

企業の成長の源泉は人であるとの観点から、一人ひとりの個性や人格を尊重し、さまざまな機会を通じて人材を育てていきたいと考えています。また、企業理念・ビジョンから組織風土の醸成まで、体系的な研修プログラムを提供することで、従業員それぞれが持てる力を十分に発揮し、グループの成長に結びつくよう取り組んでいます。

#### 人材育成の概念図



### 日本橋タヤけ倶楽部の開催

三菱樹脂では社内講演会として、2010年度から2ヶ月に1度、社内外から講師を招いて「日本橋タヤけ倶楽部」を開催しています。この講演会はグループの社員なら誰でも参加可能で、テーマはビジネス関連から身近なトピックスに至るまで多種多様です。また名称からも分かる通り、講演は夕方からスタートし、終了後には講師も交えた軽食懇談会も同時開催しています。仕事とは違った新たなコミュニケーションの場として毎回多くの社員が参加し、ネットワークを広げる機会となっています。



タヤけ講演会

### CSジャンプアップ研修(CS研修)の開催

CS研修は主に事務職社員を対象とした研修で、基礎的なマナーやコミュニケーションスキルの確認からCS(顧客満足)まで、日常生活でも役立つ内容となっています。この研修を通して、他部門との交流や成長につながる「気づき」の場として、2010年度からの2年間で約600名が受講しました。



CSジャンプアップ研修の様子

## KAITEKI研修の開催

三菱ケミカルホールディングスが進めている、KAITEKI経営の理解を深めるため、本社地区の女性社員が中心となって研修会を開催しました。チームに分かれて、「KAITEKIを実現するために私たちができることは何か」等のテーマについて活発な議論を行いました。1泊2日の研修の後半には、経営幹部の前でグループごとにまとめた提言を行いました。



KAITEKI研修会

## 研修施設の整備・充実

三菱樹脂では、階層別研修や技術研修など多くの研修を開催していますが、神奈川県の研修施設に加え、滋賀県にも研修施設『長浜CSセンター「大志館」』を新たに建設し、2010年から本格的に運用を開始しています。国内東西の拠点を積極的に活用し、個性を伸ばす人材育成に取り組んでいます。



CSセンター、長浜CSセンター「大志館」

## MPIチャレンジ(通信講座特別支援制度)

2011年度より、英語・中国語の語学力向上を支援する「通信講座特別支援制度」がスタートしました。この制度は期間限定ですが、個人がTOEICや中国語検定のスコアにおいてチャレンジ目標を設定し、通信講座を受講・修了後、目標を達成した場合には、会社から通信講座受講料の追加支援がなされるものです。これまでに44名がチャレンジし、7名が目標を達成しました。



通信講座のガイドブック

## グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)

世界各地で活躍するスタッフとともに、英語のみで行うグローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)研修を実施しています。2011年度は、ドイツ・インドネシア・アメリカなどの5カ国からメンバーを集い、新規事業開発に向けたテーマ別の研究や経営幹部への報告会など、さまざまなプログラムに取り組みました。



GLP研修の様子

## 新入社員研修

三菱樹脂では、新入社員が職場へ配属される前に、社会人としての基礎を習得するため、入社直後の4月から約2ヶ月間と7月の本採用時の2回にわたり、新入社員研修を実施しています。敬語の使い方や電話のかけ方、社内・社外の文書の書き方など、社会人の基本を学ぶビジネス実践研修や、製造現場の業務を通しメーカー人としての素養を身につける交替実習、計画を立て実行し、事実をもとに物事を考えることの重要性を実感して学ぶウォークラリー研修など、自ら考え体感する研修を中心に実施しています。また、上記以外にも、三菱樹脂の事業を理解するための研修やマーケティング研修など、各研修を通じOJTに入る前の準備期間を設けています。



新入社員研修 ウォークラリーの風景



### 人材育成の現場から

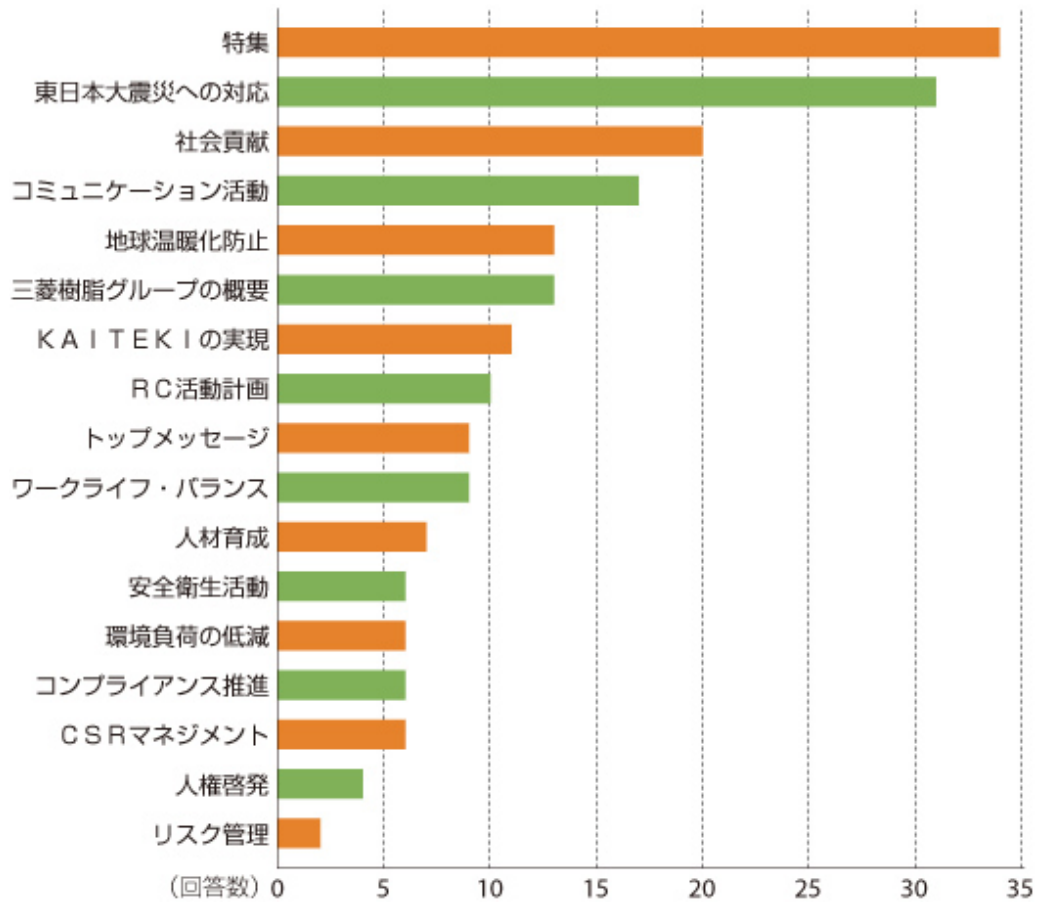
人材開発部では、人材育成と共に採用も担当しています。採用から育成まで一貫した役割を担うことで、社員の成長を入社からずっと見守り続けることができます。実際の仕事を通して成長するOJTや階層別に行われる社内研修などは、企業の成長に一役かっているものと信じています。採用においても、会社説明会や工場見学の際にはより多くの社員が登場して、三菱樹脂のありのままの姿を伝えています。社内各部門との連携は会社全体が一丸となって社員の成長を願う、より良い社内風土の醸成にも繋がっています。



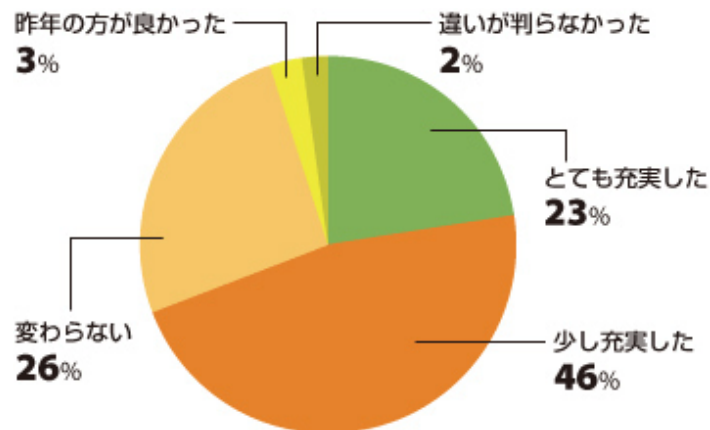
人材開発部  
河野 隆紀

CSRレポート2011 アンケート結果

特に印象に残ったこと、知ってよかったと思われたことは何か？



三菱樹脂グループCSRレポート2011について(内容、デザイン、わかりやすさ)



## 三菱樹脂グループの活動および情報開示について

